

拠点名称：海山里のつながりが育む自然資源で作るカーボン・サーキュラー・エコノミー拠点

代表機関	宮城大学	プロジェクトリーダー	西川 正純 宮城大学 食産業学群 教授
幹事自治体	宮城県、南三陸町	幹事機関	宮城県漁業協働組合志津川支所
参画機関	九州大学、東北大学、東海大学、石巻専修大学、水産研究・教育機構 株式会社ケーエスフーズ、株式会社フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング、株式会社カネキ吉田商店、マルキュー株式会社、三陸飼料株式会社、有限会社高木商店、株式会社石渡商店、株式会社はつらつ、アマタ株式会社、理研食品株式会社		

プロジェクトの概要

環境保全と経済の発展はトレードオフではなく地域創生にとって両輪となるべきであり、カーボンニュートラルにおいても炭素を産業資源として活用するカーボン・サーキュラー・エコノミーがローカルSDGsの鍵になる。サーキュラー・エコノミーは、エネルギー資源を新たに生み出さず資源を循環利用するものであるが、カーボン・サーキュラー・エコノミーは再生可能エネルギーを地域内外で利用するとともに、炭素資源をアップサイクルにより再利用や新たな資源化を図ることでCO<sub>2</sub>の大气排出を抑制するものである。

三陸沿岸は、水産業を主幹産業としつつ生物多様性に優れた環境を保持しており、水産生物の生育基盤である海藻類をブルーカーボンとしてクレジット化し、海洋未利用物を資源化するとともに、木質資源やバイオマス資源をエネルギーとして地域内循環利用しレジリエンスのある社会とする。社会構築には新たな産業を担うレジリエントアントレプレナーを育成し、持続的なカーボン・サーキュラー・エコノミー社会を実現する。

Target A:ブルーカーボンの実装

Target B:海洋資源の高度化

Target C:バイオマス資源の循環利用、農地アップサイクル

Target D:干潟復旧での環境教育



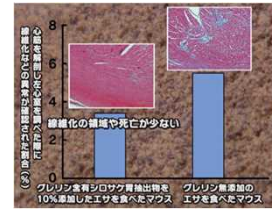
陸上養殖ウニのAI判別



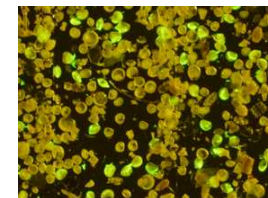
遊走子DNA解析



DHA生成藻類の培養



サケ由来ゲルインの素材化



アサリ幼生のAI判別



環境教育